

## 投資の基礎講座 「金利の見通しをどのように捉えるか」

最近、「これから金利はどうなりますか?」という質問をよく受けます。経済の教科書的に言えば、「景気が悪化しているため金利は低下すると思います。」というのが答えかもしれませんが、しかし、市場の金利は教科書どおり動くわけではありませぬし、そもそも質問者の金利とはどの金利のことを聞いているのか(皆さんはどの金利の動きを知りたいのか)によって答えが変わるかもしれません。

預金金利のことなのか、住宅ローン金利のことなのか、あるいは外貨預金の金利のことかもしれません。これらの見通しを判断する材料としては、10年国債や金融債の利回り、Libor(ライボー London Inter Bank Offered Rate)やTibor(タイボー Tokyo Inter Bank Offered Rate)などが参考になります。

預貯金金利は余程大きな金利変動がない限り当面動くことはないと思いますが、外貨預金金利は米ドル建てならば米ドルの1ヶ月から1年のLibor金利の動きに比較的連動しやすくなっています。これは金融機関が調達、運用が銀行間の資金をやり取りする短期金融市場で行われていることが多く、その金利がLibor金利に連動しているためです。したがって、Libor金利の動きを追っていると金利の変化の方向に大きな間違いは出にくいと思います。

一方、住宅ローン金利は金融機関の貸出態度と長期金利の動きに左右されます。住宅ローンを伸ばそうとする金融機関が増えれば競争原理が働き金利は低下しやすくなります。長期金利の代表的な金利が新発10年国債の流通利回りです。国債市場は機関投資家が積極的に売買を行っている市場で、金利見通しや資金繰りなどから買い需要が多くなると金利が低下し、売りが増えると金利が上昇します。つまり、プロの金利見通しの結果が国債の利回りとなって現れることとなります。10年国債や5年国債の利回りの変化に注意して見ましょう。(下の「国債利回り」グラフの動きが参考になると思います。)

## 先週の金融市場データ

## スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成20年10月6日現在

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	11,743.61円	11,743.61円	10,938.14円	10,938.14円
TOPIX	1,127.87	1,127.87	1,047.97	1,047.97
ニューヨークダウ平均	10,365.45ドル	10,850.66ドル	10,325.38ドル	10,325.38ドル
NASDAQ	1,983.73	2,091.88	1,947.39	1,947.39
10年国債利回り	1.485%	1.520%	1.445%	1.445%
5年国債利回り	1.000%	1.065%	0.960%	0.960%
無担保コールO/N	0.497%	0.540%	0.468%	0.469%
米国FFレート	0.5000%	2.0000%	0.0625%	2.0000%
米国10年国債利回り	3.57%	3.82%	3.57%	3.60%
ドイツ10年国債利回り	3.97%	9.92%	3.93%	3.94%
ドル/円相場	106.14円	106.28円	104.75円	105.01円
ユーロ/円相場	152.23円	152.23円	145.30円	145.30円
1ユーロ=ドル	1.4351ドル	1.4364ドル	1.3836ドル	1.3836ドル
豪ドル/円相場	88.81円	88.81円	81.30円	81.30円
NY原油先物(WTI)	96.37ドル	100.64ドル	93.88ドル	93.88ドル
NY金先物	894.40ドル	894.40ドル	833.20ドル	833.20ドル

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
東和銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
高崎信用金庫	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
郵便局	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%

## LIBOR(ライボー)とTIBOR(タイボー)

LIBOR(London Inter Bank Offered Rate)は、ロンドン銀行間の資金の出し手レート(貸出レート)です。国際金融取引の指標として利用されています。金融機関が資金調達をするときの基準金利です。ロンドン時間午前11時時点の、特定銀行のオフアードレートを、英国銀行協会(BBA)が集計して平均値を公表しています。

TIBOR(Tokyo Inter Bank Offered Rate)は、銀行間の資金の出し手レートです。東京市場で、資金を貸し出す側が提示するレートで、金融機関が資金調達をするときの基準金利です。日本時間午前11時時点の、特定銀行のオフアードレートを、全国銀行協会が集計して平均値を公表しています。

平均レートですから、相手の金融機関により金利は異なります。かつて日本がバブル崩壊のとき、日本の銀行の信用力が低下し、「ジャパン・プレミアム」という外国銀行に比べ日本の銀行は高い金利を提示されたことがありました。しかし、現在は欧米の金融機関の信用力が大きく低下しているため「逆ジャパン・プレミアム」ともいえる状況になっています。

## 今週の株式相場見通し

先週の株式相場は、予想に反し米下院で金融安定法案が否決されたことから金融不安が拡大し大幅に下落しました。金融市場の混乱に加え、实体经济の悪化も顕著となってきたことから下落幅を拡大、日経平均株価は、2005年5月以来の11,000円割れ、TOPIXは2004年5月以来の水準まで値を下げました。

今週の株式相場は、下値模索の展開が続くそうです。10月3日の終値ベースで東証1部1,718銘柄中1030銘柄がPBR1倍割れ、3%以上の配当利回り銘柄が581銘柄(いずれも出所Quick)と投資指標からみれば底値とも思える水準まで下落しているものの、投資家の株式離れが継続していることや景気の悪化を嫌気し、買いが入りづらい状況が続くものと思われます。

日経平均株価は25日移動平均線から10%近く下方乖離しており、自律反発も期待できることから10,500~11,500円程度の推移が予想されます。

## 今週の債券・為替相場見通し

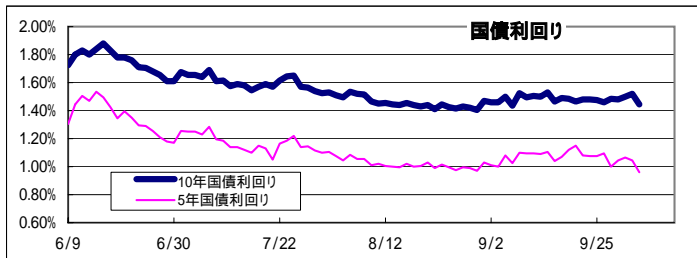
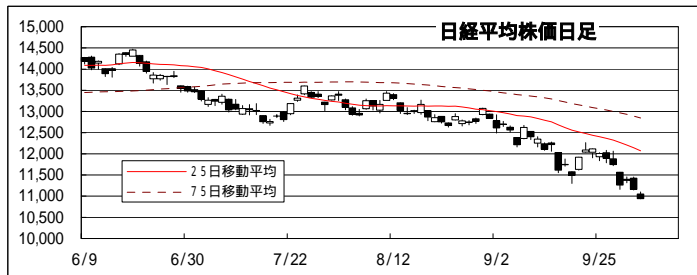
先週の債券相場は、景気悪化や株安と金融市場の不安定化により乱高下、10年国債利回りは1.530%まで上昇する場面がありましたが、週末は1.445%まで低下して引けました。

今週の債券相場は、景気悪化とリスク回避の動きから、債券買いの動きが強まり金利低下が見込まれます。一方で財政規律が緩むことを懸念する動きも出る可能性があり、値動きの荒い展開が続くものと思います。

10年国債利回りで1.38~1.50%程度での推移が予想されます。先週の為替相場は、米下院で金融安定法案が否決されたことからドルが急落、一時1ドル=103円台半ばまで円高、ドル安が進みましたが、再決の可能性が出て106円台前半まで値を戻しました。しかし、米国の实体经济の悪化を示す指標の発表が相次いだことから再びドルが売られ、105円台前半で引けました。

今週の為替相場は、相対的に日本の景気の落ち込みが小さいとの見方が強く、円が買われやすい状況となっています。

1ドル=104円00銭~105円80銭程度の推移となりそうです。



本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものであり、その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイドファイナンシャルプランナー®は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。